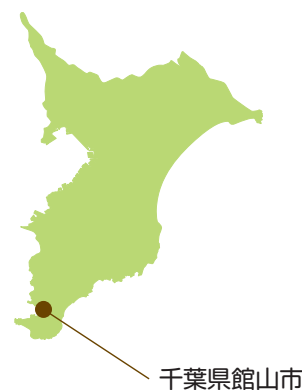


# 株式会社須藤牧場

※2016年3月現在

代表者名	須藤 裕紀	資本金	5百万円
設立年	2014年7月28日	売上高	89百万円(2015年11月期)
事業内容	生産(酪農)、消費者直売、加工・製造(アイスクリーム)、観光・交流、飲食	経営規模	田0.8ha、畑7ha、採草牧草地1.3ha、施設620㎡、加工場50㎡、直売所30㎡、畜舎2,800㎡、経産牛80頭
従事者数	7人(うち女性2人。女性内訳:役員2人)		
女性活躍支援	<p><b>[女性に配慮して取組んでいる制度]</b>                  休暇(産前産後・生理・育児・介護看護)、短時間勤務制度、育児・介護休業中の能力向上、育児休業後の継続就業支援</p> <p><b>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</b>                  施設設備関係(野外トイレの設置)、重労働等の業務改善、技術・知識の習得支援</p>		



千葉県館山市

## 経営概況

(株)須藤牧場は千葉県館山市の農業法人である。代表取締役の須藤裕紀氏、取締役で妻の陽子氏は、「地域交流牧場全国連絡会」理事(1999年)、地元小学校のPTA会長、酪農教育ファームの立ち上げと研修など、幅広く活躍している。2001年には牧場が“酪農教育ファーム”に認定され、陽子氏はファシリテーターの認証を取得。2006年には家族経営協定を締結し、2014年に牧場を法人化した。

現在の事業内容としては、酪農、消費者直売、

アイスクリームの加工・製造、観光・交流、飲食であり、経営規模は経産牛80頭、畜舎2,800㎡、加工場50㎡、直売所30㎡、施設620㎡、売上高9,253万円(2014年度12月期)を計上している。従業員は役員(男性2名、女性2名)、正社員一般職(男性1名)、常勤パート(男性2名)である。

## 1. 経営者の意識改革

就農当初(1987年)は1日13時間という長時間労働、しかも過酷な作業に追われていたが、結婚を機に大幅に改善する必要に迫られた。1994年にフリーストール牛舎を新築し、作業の効率化を図った。女性の体格に合わせた作業場(搾乳時のミルクングパーラーのピットの深さ、ミルクカーの高さ等)と、安全かつ簡単に操作できる機械化(自動給餌機・ホイローダー等)の導入により、快適な労働環境を実現させた。2006年に家族経営協定を締結してからは、家族間の役割分担を明確にし、男女問わず責任をもって生き生きと取り組めるよう配慮した。体験交流の窓口を陽子氏に、店の店長を長女に就任させ、本人の



考えを尊重した店作り、及びメニューの開発を行うなど、責任が持てるようにした。

## 2. 女性役員の活躍と地域への貢献

新牛舎の建築をしていた頃、グリーンツーリズムが注目され始めた。そこで牧場を広くオープンにし、体験などの要望に応える活動をいち早く取り入れている。それにあたり業務の部門分けを行い、陽子氏が責任者となった。

当初は、年間20回程度であった体験受け入れは、リピーターや口コミ、ホームページを通じて年々増加し、開始から15年を過ぎた2009年には、年間受入れ回数が90回にもものぼった。多くの訪問者のおかげで衛生面の気配りが以前より高まり、牛群管理も行き届き、乳質を高く保つことができたという。「全国酪農青年婦人会議」での酪農経営発表大会において、優秀賞及び審査員特別賞を受賞するなど、経営面での評価を得ている。

女性のキャリア育成については、裕紀氏は陽子氏とともに日々ともに作業し、細部まで研修して、自信をもって取り組めるまで指導した。また陽子氏は、結婚前に小学校教員として積んできたキャリアを活かし、乳牛管理を表にするなど、働きやすい環境づくりに努めた。

体験交流に関しては1997年から、陽子氏自らが全国ネットの発起人として都内での会議に参加し、全国の人々との交流を深めた。1999年の「地域交流牧場全国連絡会」発足と同時に理事も務めている。同じ時期、地元の小学校のPTA会長を務め、教師と地域、家庭とのつながりを深めた。

酪農教育ファーム立ち上げにも関わり、2001年に牧場は酪農教育ファームに認定された。陽子氏はファシリテーターの認証も受けている。長女は高校生の時に調理師免許を取得し、加工品メニューを開発。新店舗開業後は店長として、加工部門の研修会に積極的に参加し、知識を深めている。

## 3. 女性に配慮して取組んだ制度・環境整備

仕事と家庭の両立支援について実施しているのは、短時間勤務制度、育児休業の代替要員の確保、育児・介護休業中の能力向上、育児休業後の継続就業支援である。

労働環境としては主にトイレを整備し、快適に作業ができるように、女性用に規格を合わせ、かつ操作が簡単な機械を導入した。牛舎内外を清潔に保ち、花を多く植えて四季を通じた環境整備にも取り組んでいる。

## 4. その他の取り組み

牧場での作業や体験受け入れ時の経験から、動物たちの日常を書き止め、母親の愛情の強さと娘との絆や、命の大切さをテーマとした絵本を自費出版した。さらに、バター作りのテーマソング「牧場で生まれたミルクのうた」を制作した。現在は、2人の息子が劇団「須藤兄弟」を旗揚げし、酪農振興に一役かっている。

### 審査委員の声

「365日仕事があるからこそ、楽しく頑張る」。家族経営協定により、家族間の役割分担や就業条件を明確化。牛舎の省力化や機械化により、女性が働きやすい労働環境も実現した。法人を設立してからは、酪農教育ファームとして総合学習に協力し、イベント、体験受け入れ等、地域・人・動植物との共生を図りながら、酪農の多面的な機能を実践している。命の大切さを伝える陽子氏執筆の絵本『牧場のおはなしモモコ』と『牧場のおはなしのち』は、愛情いっぱい温かい。2010年に開設したカフェの店内はユニークで、メニュー開発は代表の長女が担当している。牧場の温かさや繋がり合う人たちの輪を大切に、ますます女性の感性を活かした経営を期待したい。